

# ハンドブック ワンポイント レッスン

## 知っておきたい規則とルール

### Question

先日の県大会でアンパイヤーをした時のことです。  
1ゲーム目が終わり、正審の私が「チェンジサイズ」のコールと「ゲームカウント」のコール後、2ゲーム目が始まろうとした時、プレーヤーからポイントカウントが違っており1ゲーム目の決着が着いてないとの質問がありました。しかし、すでにサイドのチェンジを行っており、次のゲームを始める構えに入っていたので、プレーヤーからの質問・提訴は出来ないと判断し受け付けませんでした。質問・提訴は何時まで出来るのでしょうか？

### Answer

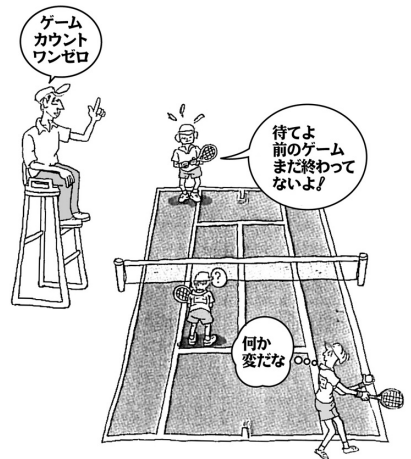
次のポイントが始まるまでプレーヤーの質問・提訴はできる

次のポイントが始まっていないので、質問・提訴は出来る。ところで、アンパイヤーをしていて質問・提訴に対してそれを受け付けていいのか戸惑う時があります。まさに、今回の質問はサイドのチェンジを終え次のゲーム（2ゲーム目）が始まる構えに入っている時で、すでにプレーに入っていると思い正審をしている貴方はこのタイミングでは受け入れられないと判断されました。この質問・提訴が出来るか否かのタイミングが、皆さんが判断に迷われるキーポイントの様です。

【解説19】によると、提訴は次のポイントに入った場合、行うことができない。ただし、ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ内に限り提訴することができる。そして、「次のポイントとは、サービスをするプレーヤーが、サービスをしようとして手からボールを放した瞬間までをいう」とあり、この部分が適用されこの度の質問・提訴は受け付けることができるギリギリのタイムリミットでした。

ところで、質問等についてタイミングを誤って受け入れている場合があります。例えば、1ゲーム目のポイントカウントについては、2ゲーム目に入ると受け入れるわけにはいきませんね。2ゲーム目の始まりはサービスをするプレーヤーが、サービスをしようとして手からボールを放した瞬間です。その後なら、1ゲーム目のポイントカウントは成立しており、覆す事はできませんので、1ゲーム目のポイントについての質問等は受け入れないこととなります。

競技規則の【解説19】及び審判規則の【解説25】2をご参照ください。



### 【関連規則】

#### 競技規則【解説19】

提訴は次のポイントに入った場合、行うことができない。ただし、ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ内に限り提訴することができる。次のポイントとは、サービスをするプレーヤーが、サービスをしようとして手からボールを放した瞬間までをいう。

#### 競技規則【解説25】2

ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ内に再判定を行うものとする。